



令和7年度

SSH 生徒研究発表会

WAKASA サイエンスダイアログ 対話と探究で未来を拓く～地域と協創する科学技術人材の育成～

2月7日(土)、SSH 生徒研究発表会を開催しました。嶺南地域の小中学校・高校に加え、連携校である暖暖高校(台湾)・デラサールリパ高校(フィリピン)の2校にも参加いただきました。また、助言講師として多くの大学の先生方や地元行政・企業の皆様に協力いただきました。本発表会は、発表を通して自らの探究を客観的に見つめなおし、研究内容をブラッシュアップするきっかけをつかむための場となりました。さらに、異なる世代が一堂に会して探究について対話を深め、「自ら問いを立て他者と協創する力」を養う貴重な機会となりました。



国際共同研究発表



開会行事の後、本校・暖暖高校・デラサールリパ高校の生徒による国際共同探究の発表を行いました。今回発表したのは今年度7月実施の若狭高校生国際科学フォーラム(WISF)にて結成した探究チームの代表で、本校からは1年文理探究科の木村里桜さんが所属しています。研究テーマは「フィリピン、日本、台湾における藻類、コーヒー、アロエベラを用いた持続可能繊維の受容性と市場性調査」で、ファッション産業が抱える環境負荷(大量廃棄や水質汚染)を解決するため、天然素材を活用した「サステナブル繊維」に着目した研究です。探究チームは、フィリピン(バタンガス)・日本(小浜)、台湾(基隆)の3地域の消費者を対象に新素材の市場性と受容性を調査し、伝統衣装への活用や地元デザイナーとの連携を通じて、環境保護と文化継承を両立させる新たな市場の可能性を提言しています。



学科別 探究プレゼンテーション

各学科に分かれ、本校2年生が探究成果発表を行いました。助言講師の先生方をはじめ、本校保護者の皆様、他校の先生方、地元の小中学生など多くの方々に参加いただき、生徒たちの大きな励みとなりました。3年生進級後は、プレゼン甲子園や各種学会等に出場したり、探究の実践記録を作成したりするなど、3年間の探究活動の総まとめに取り組みます。



ラウンドテーブル

本校1・2年生と近隣小中高生が探究活動の過程や展望、身に付けたい力について対話するラウンドテーブルを開催しました。本校教職員や進路の決定した3年生がファシリテーターを務め、多角的な視点から問いを重ね、新たな探究のヒントを得るために、この発表形式を採用しています。

本校はSSH事業の成果を地域に還元すべく、小中高連携に注力しています。内外海小学校との探究交流会・海ごみ問題啓蒙活動や小浜第二中学校の発表会への参加など、活動は多岐にわたります。今後も、対話を通じた探究の質の向上と、地域連携の強化を推進していきます。



若狭高校 SSH では、身近な「なぜ?」から探究を始め、対話を通して問いを磨き続けます。海や地域、世界をフィールドに、仲間と協力しながら学びを深めていきます。

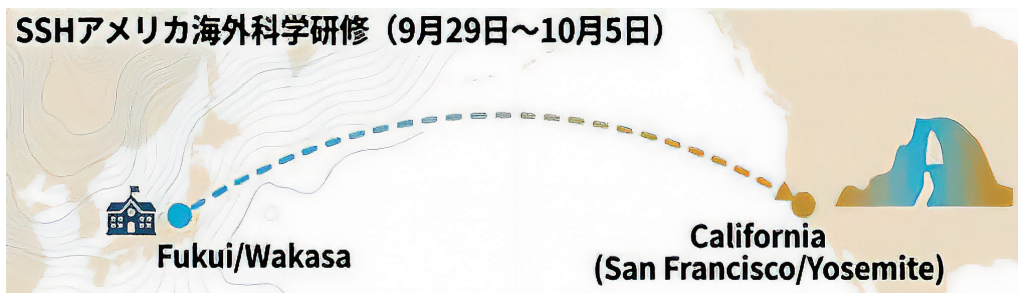
参加生徒の声

初めは緊張してたのですが、喋りかけてくれたり、アイスブレイクや高校生の皆さんが温かく一つの発表に感想や質問をどんどん言ってくれたり、雰囲気が出しやすかった事が嬉しかったです。2年後自分もそうなれるよう頑張りたいです。(小浜中学校)

世界最高峰の研究に触れる

～ 探究の舞台は、アメリカ西海岸へ～

SSHアメリカ海外科学研修 (9月29日～10月5日)



『SSHアメリカ海外科学研修』では、世界をリードする大学や企業を訪問し、様々な研修に取り組みます。

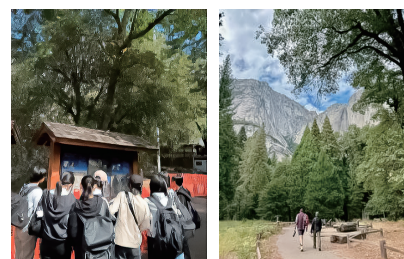
- ① 講義や実習、研究者との対話を通して世界最先端の研究について学び、科学技術に対する興味関心を高める。
- ② 将来、研究者として社会の発展に貢献しようという志を育み、国際的に活躍する理数系人材の育成を目指す。

上記2点を目的とし、毎年希望者を対象に実施しています。

今年度は2年生 14名 (国際探究科3名・理数探究科7名・普通科4名) が参加しました。

ヨセミテ国立公園

ヨセミテ国立公園では、フィールドワークとして植生や地形の観察を行いました。事前には山火事の影響が心配されていましたが、当日は天候にも恵まれ、予定どおり研修を実施することができました。日本ではあまり見られない植物や特徴的な地形を実際に観察し、教室では得られないスケールの大きさや多様性を体感することで、自然科学への理解が深まるとともに、探究心が一層刺激されている様子が見られました。



マーセッド大学

提携校であるマーセッド大学を訪問し、キャンパスツアーへの参加や英語の授業の聴講に加えて、探究活動のポスター発表も行いました。ポスター発表では、現地の大学生から貴重なフィードバックを受けました。昼休みの短い時間の中で、「ひとりあたり5人の学生に発表を聞いてもらう」というミッションを達成するために、自身の探究に対する思いを懸命に伝えようと工夫する姿が見られました。さらに、全米で2校のみが導入しているVR学習システム「ドリームスケープ・ラーニング」も体験しました。生徒からは「VR空間でボールに触れたり水しぶきを感じたりと、まるで本当にその場にいるような迫力がありました」との声も聞かれました。最先端の教育技術に触れ、科学技術が学びをどのように発展させていくのかを考える貴重な機会となりました。



Apple社

Apple社では、現役の日本人スタッフの方々から直接お話を伺いました。「リーダーシップ」や「チームワーク」の重要性を実感するとともに、「自分も海外で働くという選択肢を持てるかもしれない」という新たな可能性に触れる、非常に貴重な機会となりました。

参加生徒の声

Appleでは一人ひとりのユニークさが重視されていること、そして全員が一つのプロジェクトに集中することで、人種の違いを越えて対等に話し合えることを知りました。Appleが世界中で愛される理由が少し分かった気がします。これからの生活では、自分の意見も相手の意見も大切にしていきたいです。

帰国後の報告会では、「現地研究者から直接フィードバックを受けたことが、新たな視点から研究内容を見直す契機となり、環境問題をより広い視点から考察する必要性を実感した」や「技術面だけでなく倫理的観点からの考察が欠けているという指摘を受け、研究テーマの見直しや論点の追加を行うなど探究の質が深まった」といった声が聞かれ、本研修を通して、参加者の科学への関心や探究心がさらに深まった様子が伝わってきました。

新たな出会いから新たな課題が生まれ、次の探究へのエネルギーとなります!

【地域×科学】 地元の課題を、科学で解き明かす

◆科学部快挙！ 理科クラブ研修会・研究発表会で優秀賞受賞



本校科学部が取り組んだ「小浜湾海底のマイクロプラスチック分布調査」が、10月30日(木)に行われた理科クラブ研修会・研究発表会にて優秀賞を受賞しました。先輩の代から約1年半にわたり、本校教員に加え、実習船「雲龍丸」のスタッフ、若狭湾エネルギー研究センター、福井県立大学海洋生物資源学部の先生方など、多くの皆様の協力を得ながら研究を続けてきた成果がついに実を結びました。また、この研究成果により、福井県高等学校文化連盟からも奨励賞をいただきました。



若高生、理数グランプリの舞台で大活躍！！

◆地学グランプリで優秀賞・奨励賞 W 受賞



9月7日(日)、「令和7年度 ふくい理数グランプリ」が開催され、若狭高校からは1・2年生合わせて予選を通過した5チームが出場しました。理数グランプリは、ただ難しい問題を解くだけでなく、各科目のテーマに対してチームの仲間と知恵を出し合い、自分たちの考えをプレゼンテーションする、まさに総合的な力が問われる競技です。若狭高校チームからは、地学グランプリで1年文理探究科の堀口芽愛さん・松野恵実さん・村松優奈さんが優秀賞を、2年理数探究科の浦松藍那さん・木下小鶴さん・中川裕佳理さんが奨励賞を受賞しました！

地域の研究機関と連携し、最先端の研究・技術を学ぶ

◆福井大学附属国際原子力工学研究所訪問研修

1年文理探究科(理数探究科志望)

10月6日(月)、1年文理探究科の理数希望生徒が福井大学附属国際原子力工学研究所で研修を行いました。前半は、研究室や施設を見学し、最先端の研究現場を体験しました。続く泉教授と松尾准教授による講義では、私たちの生活を支える放射線の役割や人体への影響についてレクチャーしていただきました。放射線によるDNA損傷の程度を調べる実験にも挑戦し、生徒たちは初めて扱う実験器具や薬品に興味津々で、意欲的に取り組んでいました。本研修は、生徒たちの科学への関心を高めるだけでなく、探究活動における「問いの立て方」や「視点の持ち方」を学ぶ貴重な機会となりました。



◆若狭湾エネルギー研究センター訪問研修

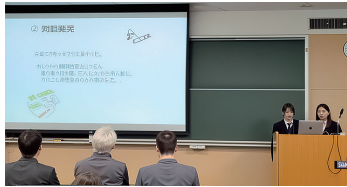
2年理数探究科

12月15日(月)、2年理数探究科の生徒が若狭湾エネルギー研究センターで研修を行いました。実習では、共焦点レーザー顕微鏡や蛍光 X 線分析装置などの最先端の設備を活用し、画像解析によるDNA損傷の計測など普段の授業ではできない高度な科学実験に挑戦しました。最後には、実験の結果を自分たちで発表し、講師の先生方からアドバイスをいただきました。参加した生徒からは「未知の分野に触れ、進路を考える上で新しい価値観が得られた」といった感想が聞かれ、科学への興味がより深まった様子でした。



本校理数探究科では、様々な大学・研究機関とつながることで、段階的に科学的思考(サイエンスリテラシー)を高める研修をカリキュラムに取り入れています。

地域の川から、東京のサミットへ。海洋科学科1年生の挑戦



◆Marine Dream Nou Special Award 受賞

海洋科学科1年生の小川紗友紀さんと市橋なな実さんが東京海洋大学で行われた第3回森川海街こどもサミットにて発表し、Marine Dream Nou Special Award を受賞しました。2人は海ごみの多くが陸域起源であることから川に着目し、岐阜・滋賀・福井の3県の河川で落ちているゴミの数や種類を比較調査しており、人の活動との密接な関連性について考察を深めています。サミットでは海外の研究者の知見に触れ、啓蒙活動の方法や水質の重要性など新たな視点を得ることができました。大学生とのディスカッションも大きな刺激となり、探究を深化させる貴重な学びの場となりました。

海洋科学科の探究活動の成果を全国に発信する

◆全水研の発表会で海洋科学科2・3年生が優秀賞受賞

発表題目「私を夢中にさせるクラゲの存在」

2年海洋科学科の道根陽菜さん(写真上段)が、日本海北部地区ブロック大会を突破し、8月5日(火)に山口県で開催された令和7年度第11回全国水産・海洋高等学校産業教育意見・体験発表会において優秀賞を受賞しました。



発表題目「シイラはおい“しいら”しい」

3年海洋科学科の上山千咲登さんと清水浩晴さん(写真下段)が、11月6日(木)に富山県立氷見高等学校で開催された令和7年度日本海北部地区水産・海洋高等学校生徒研究発表大会に出場し、優秀賞を受賞しました。



全水研の発表会では、研究成果だけでなく水産に関わる活動を通じて感じた事柄を伝える言語力も重視されます。本校の特色である「対話的協働を取り入れた探究活動」により培ってきた力が実を結びました。

理想の未来を実現するために、学校を超えて学びあう

◆全国高校生マイプロジェクトアワード 全国 Summit (東京) に出場決定

1月11日(日)、福井大学にて「全国高校生マイプロジェクトアワード福井県Summit」が開催され、本校からは書類選考を通過した14グループ・計31名の生徒が参加し、探究活動の成果を発表しました。サポーターの方や他校の生徒からの質疑応答・参加者同士の対話などを通して自分たちの探究を見つめ直し、次につなげるためのヒントを得る有意義な時間となりました。

また、全国Summitの選考会である「地域Summit Advanced」に2年国際探究科の宮田あいささん、山下惺也さんが進出しました。その選考会において、宮田さんの「主観的Well-beingを高めるためのモデルを作成した分析力や中学生・教員・高校生をつなぐ対話の場を設計した姿」がロールモデルとして評価され、全国Summit(東京)への出場が決定しました。加えて、下記の8グループが地域サミット特別賞を受賞しました。この取組を通して得た学びを今後の探究活動に活かし、さらに深い学びへとつなげていきます。



地域サミット特別賞

特別賞

【宮田あいささん】、【山下惺也さん】、【兼松優さん】、【千葉日菜さん・松木菜花さん】(2年国際探究科)
【森下咲来さん・藤川大輝さん・吉田悠希さん】、【臼野はるかさん・新谷空さん】、
【山田伶奈さん・芝かのこさん・石丸楓花さん・韓夏希さん】、【鈴木楓香さん】(2年普通科)